



氏名	宮栄 紗那
所属	文学部 文化構想学科
学年	3年
留学先	ダブリンシティ大学
留学期間	2025/9/8~2025/12/20

留学レポート Study Abroad Report

➤ きっかけ

初めて留学への関心を持ったのは中学生の頃でした。しかし、コロナパンデミックの影響で高校在学中の留学が叶わなかったため、大学では絶対に留学しようと心に決めていました。私は15年近く英会話の学習をしていたので、語学留学ではなく英語圏の大学で普通に講義を受けたいという思いがありました。また、アメリカには住んだことがあったので、その他の国の文化に触れたいと思い、大学に関心のある講義が多かったアイルランドのダブリンシティ大学に留学を決めました。

➤ 授業

アカデミックな英語力は授業を受けている中で身につくだろうと思ったので、留学生向けの授業は取らず、極力現地の学生に混じって受けられる授業を選択しました。自身の卒業研究に関連する授業として、メディア学入門・デジタルメディア理解・メディア視聴者論の3つの授業を履修し、それに加えて大阪公立大学では開講のない、翻訳への理論的アプローチと音楽産業論という授業を受講しました。

メディア学入門は現地の1回生向けの開講授業であり、受講生みんな1からのスタートだったのが自分の状況も重なり非常に受けやすい授業でした。ゼミで班に分かれての活動もあったので、現地の学生とともに英語でプレゼンテーションを組み立てる経験をすることができました。

デジタルメディア理論と**メディア視聴者論**は2、3回生向けの開講授業のため、メディア学入門で学んだ知識や日本で学んでいた表現文化の知識が生きました。対象学年が上がるにつれてレポート課題やテストの難易度も上がるので、全く知識のない状況からの受講は難しいと思います。シラバス等をよく確認し、履修登録の際は自分の知識や英語力で戦えるかを検討することをおすすめします。

翻訳への理論的アプローチの授業では、週2回の授業で1回は理論の学習、1回はグループ演習という風に進みました。この授業は現地の外国語学部の生徒と留学生が約半分ずつ受講していて、グループ演習ではそれぞれ好きな第2、第3外国語への翻訳を行うことができました。同じ言語の学習者同士で採点するので、日本語を学習している生徒と仲良くなるのがいいところだと思います。他の授業では周りの受講生に助けてもらうことの方が多いので、頼ってもらう経験を積むことのできる授業でもあると思います。

音楽産業論は2回生向けの開講授業で前提知識もあまりなかったため、個人的には挑戦枠の授業でした。やはり専門用語に馴染みのないものが多く少し苦労しましたが、先生が積極的に質問や意見を募っ

てくださるためついていくことができました。

総じてどの授業も質問がしやすい環境で、かつスライドが授業前後にアップロードされるので予習や復習を行えば問題なく受講できると思います。ただ必須読書の量が非常に多く、テストやレポートの出題範囲となるので速読力を渡航前に鍛えておくと思いません。

➤ 生活

アイルランドは人がとても優しく、ウェルカムな雰囲気の中で安心して生活することができました。治安も比較的よく、子供だけで買い物や遊びに出かける小学生や夜飲みに出かける女子学生のグループをよく目にしました。様々な出身や人種の方が住んでいるので、差別的な人もほとんどおらず留学生も安心して過ごすことができます。バスと電車が一日中走っており、大きく遅延することもないのでとても快適に生活することができます。歩道が広く、徒歩 1 時間までなら買い物や通学は歩いてする人が多いように感じました。休日は街を散策したり、近隣の国へ旅行へ行ったりと充実した生活を送ることができました。学生用の Leap カードというバスカードを作れば、どの区間でも市内ならバスが 1 ユーロで乗れるので、入国後すぐに申請することをおすすめします。

私が留学をした 2025 年は円がとても弱くユーロが高かったのと、アイルランド自体の物価の高さで金銭面の苦勞が一番多かったかなと思います。奨学金の出資をしてくださる方や両親への感謝を日々感じながら生活していました。

注意したいのが学生ビザ申請で、移民管理局の予約がすぐ埋まってしまう日を見つけるのが難しかったです。セメスターが始まったらすぐビザ申請できるよう、入国後すぐに 9 月上旬の予約をしておくのがいいと思います。

➤ 学んだこと

留学を経て、日本とアイルランドの生活様式や文化的な違いを感じながらも、共通した人の温かさや楽しみを知ることができました。近年では SNS が発達し、世界の様々な地域で同じ情報が手に入るからこそ、異国に住む同年代の人よりも同じ日本国内に住む年齢の違う世代との方が考え方や価値観にギャップがあるなと感じるようになったのが、今回の留学でのいちばんの気づきです。

学習面では、体系的なメディアについてより広い視点から見つめられるようになったことと、翻訳への関心が高まったことが大きな学びでした。マスメディアからソーシャルメディアにスタンダードが変化する中で、経済・政治・人権・精神と様々な分野での影響が見られるようになった経緯やそれぞれが抱える問題点について知識を深めることができました。卒業研究ではファンダム文化について調べているので、広がった視点からより探究を進めていこうと思います。

多くの文献を読みレポートを作成する中で、自然と使える語彙が増え、話したり書いたりする流暢さが増したかなと思います。前後の文章から推測する能力も上がるので、スキミングが可能になり読書スピードが飛躍的に早くなりました。

友人との関わりの中でもそれぞれの国の風習や歴史観、宗教観について考えを聞くことができ、教科書には載らないバイラルな感覚を知ることができました。日本では県を跨ぐくらいの感覚で、全く言語も文化も異なる国に行くことができるヨーロッパならではの政治や宗教、関税、移民の問題に対して各々の意見があり、非常に興味深かったです。

最後に観光で行ってよかった場所やおすすめの飲食店を紹介して、終わりとさせて頂きたいと思います。

➤ 観光

◎JAMESON DISTILLERY BOW ST.

お酒が好きな方！！アイリッシュウイスキーの蒸留所見学がとてもおすすめです。JAMESON DISTILLERY ではウイスキーの製造方法の説明とともに、試飲をしたりバーで様々なウイスキーの飲み方を試したりと楽しい時間を過ごすことができます。ここでしか買えない限定品もあるのでぜひいってみてください！

◎Christ Church Cathedral/ Saint Patric's Cathedral

アイルランドはカトリックが根付いた国です。音声案内や展示物から、アイルランドにおけるカトリックの歴史を学ぶことができます。建物やステンドグラスも綺麗なため、見て回るだけでも素敵ですよ。カトリック信者以外でもミサに参加させてもらうことができるので、特定の宗教を信仰していない方は是非足を運んでみてください。合唱団やオルガンの演奏もあり、体験してみる価値があると思います。

◎Howth

ダブリン市内から電車で 1 時間ほどのところにある港町です。私たちが訪れた時には野外フェスをしていて、出店で食べ物を食べたりアクセサリーを見たりすることができました。灯台と海の織りなす景色が美しい素敵な街です。

◎Edinburgh

アイルランド内ではありませんが、飛行機で 40 分ほどで行けるスコットランドのエディンバラ！綺麗な街並みと歴史が素敵な街です。往復 1 万円もかからないので、半期の留学でも予算や時間を気にせず観光することができます。おすすめです。

◎Paris

片道約 1 時間半でいくことができるフランスもおすすめです！クリスマスシーズンでも往復 3-4 万円ほどで行くことができます。クリスマスマーケットを見たり、シャンゼリゼ通りで買い物をしたりまたアイルランドとは少し違ったヨーロッパの街並みを見ることができるのも魅力だと思います。

Ireland



Paris

Wandering through timeless streets, where every corner whispers a story.

Eiffel Tower



December, 2025

Every journey tastes better when you savor the local flavors.



ON MERCATOR'S PROJECTION
Published by GEO. F. GRAM, Chicago, Ill.